

小論文問題

2023年3月23日（木）

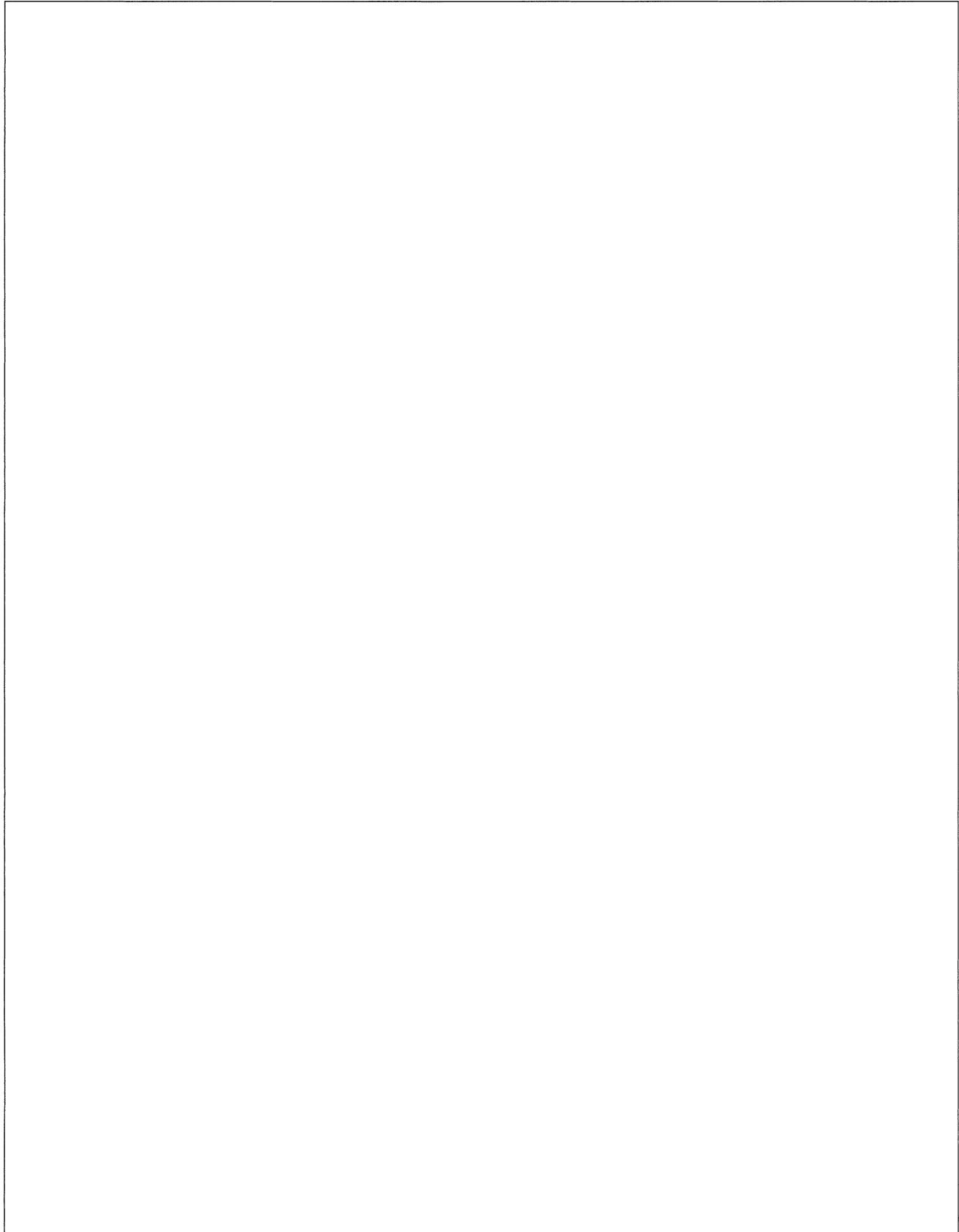
設問

先月、パンダのシャンシャンが中国に返還されたことが報道され話題となりました。動物園は、動物の展示だけでなく、希少動物の繁殖や研究としての側面も持っています。しかし野生動物の飼育や移動には難しい点も多く、様々な問題が報道されています。資料を読み、問題点をまとめ、あなたが考える野生動物と人間の望ましい関係を400文字以上600文字以下で述べてください。なお、段落は3段落で構成し、1段落で記事を要約し、2段落で記事と自分の知見を交えて問題点を明らかにし、それに対する所感を述べてください。そして3段落であなたが考える野生動物と人間の望ましい関係をそう考えた理由とともに述べてください。

- 三段落構成で書くこと。
- 下記の3つの内容を含むこと
 - 第一段落 新聞記事をまとめる。
 - 第二段落 第一段落の新聞記事に対する印象や感想を書く。
 - 第三段落 人間と野生動物との共生について、第二段落で述べたことと関連づけ、自分なりの見解を述べる。
- 文字数は400字以上600字以下とする。
- 原稿用紙の使い方に従って書くこと。

裏面はメモ欄として使用してください。

メモ欄



A large, empty rectangular box with a thin black border, occupying most of the page below the title. It is intended for handwritten or typed notes.

一小論文資料一

資料①動物の長距離移送 物議 神戸→岩手 嫁入りキリン死ぬ

読売新聞 2022. 4. 23 より抜粋

「動物の長距離移送 物議 神戸→岩手 嫁入りキリン死ぬ」

神戸市内で飼育されていたメスのキリンが今月中旬、トラックでの移送中に死んだ。オスのいる岩手サファリパーク（岩手県一関市）に、約22時間かけて運ばれる途中だった。同パークには「動物の長距離移動は人間の身勝手」といった批判も寄せられている。繁殖に欠かせないとして、日本動物園水族館協会は「引っ越し」に理解を求めていたが、移送中の死は過去にも起きているという。死んだキリンは1歳8か月の「ひまわり」。9歳の「コウタ」との繁殖を目指し、神戸市立王子動物園から同パークに移される予定だった。移送を担当した同パークによると、ひまわりは頭までの高さが約3メートルあった。しかし、荷台に積まれた箱形の鉄製おりは、高さ2メートル65。道路交通法施行令で、トラックの車高を含めた高さは最大3メートル80に制限されており、おりを低くせざるを得なかったという。【広瀬航太郎】

資料②シャンシャンまたいつか… 中国返還前の最終公開、ファンらお別れ | 毎日新聞
(mainichi.jp) 每日新聞・電子版・2023. 2. 19

編集部注：問題文中の網掛け部分は個人名を置き換えています。

「シャンシャンまたいつか… 中国返還前の最終公開、ファンらお別れ」

上野動物園（東京都台東区）で19日、中国へ返還されるジャイアントパンダ、シャンシャン（雌、5歳）の最後の一般公開があった。事前抽選で当選した約2600人が別れを惜しがった。観覧時間は1人あたり2分程度と短かったが、愛くるしい姿をスマートフォンのカメラ機能で撮影したり、「ありがとう」「バイバイ」と呼び掛けたりした。

台東区の小学1年、■■■ A ■■■さん（7）は「また（上野に）帰ってきてほしい」と話した。母 ■■■ B ■■■さん（39）も「自分の息子（の成長）にも重なり、ニュースなどずっと見守ってきた。さみしい」と残念そうだった。

また、シャンシャンの観覧が縁で知り合いになったという神奈川県鎌倉市の主婦、■■■ C ■■■さん（55）と東京都墨田区の主婦、■■■ D ■■■さん（55）は、タケを食べている姿をたくさん撮影したという。■■■ C さんは「癒やされるかけがえのない存在で、数え切れないくらい見に来た。ありがとうという気持ち」と話した。

シャンシャンは2017年6月に上野動物園で誕生。21年6月に生まれた双子のシャオシャオとレイレイの姉にあたる。当初、2歳をめどに返還される予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響などで5回延期され、21日に所有権がある中国に向けて出発する。

午前中に上野を離れ、その日のうちに中国・四川省のパンダ保護研究センターに到着する予定。パンダは希少動物の国際取引を規制するワシントン条約で譲渡が禁止されている。シャンシャンの両親は共同の「繁殖研究」を目的に中国から貸与されているため、シャンシャンの所有権も中国にある。シャンシャンは1月下旬に発情期を迎えていることが確認されており、中国で相性のいいパートナーを探すことになる。

上野に初めてパンダが来たのは1972年。日中国交正常化を記念し中国から雄のカンカンと雌のランランの2頭が贈られた。これまでに中国から7頭が来園し、生後間もなく死んだ2頭を含め、7頭が誕生した。育ったのは86年生まれのトントン、88年生まれのユウユウ以来、シャンシャンが3頭目。上野では29年ぶりの「育児」となった。4、5頭目になるシャオシャオとレイレイも順調に育っている。【柳澤一男】